

平成22年度業務実績 小項目評価（案）

資料2

※ 本表は次に該当する意見について記載しています。

- (1) 評価が法人の自己評価と異なる項目 (2) (1)以外で、特筆すべきコメントのある項目

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

評価の大項目		小項目 番号	自己 評価	委員会 評価意見	コメント（案）
1 質の高い医療の提供 (1) 医療機能の充実	ア足柄上病院	1	A	A	総合診療科を充実し実績を上げていることは評価できる。
		2	A	<u>S</u>	述べ患者数は減少しているようだが、高齢者医療に対する評価は数値のみでは計れない。取組については評価できる。
				A	スマイルによる高齢者総合医療は評価できるが、急性期から回復期や慢性期への関わりについてはより工夫が望まれる。
		3	A	A	新設された64列CTにより患者の負担軽減が図られたことは評価できる。
	4	A	A	削減すべき目標として、受入拒否件数を検討していただきたい。	
	イこども医療センター	6	A	<u>S</u>	他の医療機関では新生児手術や乳児外科手術が少なくなっているなかで、積極的に取り組んでいることは評価できる。
		8	A	A	削減すべき目標として、周産期救急県外搬送患者数を検討していただきたい。
	ウ精神医療センター 芹香病院・せりがや病院	15	A	A	プログラムの実施回数を増やしたことによる適用患者数の大幅増は評価できる。
	エがんセンター	17	B	B	外来化学療法の種類や進歩を踏まえ、今後件数以外の視点における目標設定について検討していただきたい。
	オ循環器呼吸器病センター	20	B	<u>A</u>	心臓手術やカテーテルアブレーションなど不整脈治療が大幅に伸びたことは評価できる。
				<u>A</u>	PCI症例数は減少しているが、治療の目的や内容、種類は多様であることから、数値だけで評価することに違和感はある。医師1名の確保により手術件数が大幅に伸びたことは評価できる。
				<u>A</u>	PCIの適応を厳格化し、カテーテルアブレーションを増やしていくことを今後も継続する方針であれば、カテーテルアブレーション件数を数値目標としてはいかがか。
22	A	※補足 説明後	結核医療においては、確実な排菌をして早く日常生活に戻れるようにすることが必要である。 退院後の支援のために、老人保健施設との連携も積極的に進めていただきたい。		

評価の大項目		小項目 番号	自己 評価	委員会 評価意見	コメント（案）
(4) 臨床研究の推進		28	B	B	臨床研究の目標設定については、視点や切り口をどうするか今後検討が望まれる。
		30	A	<u>S</u>	難しい小児治験に積極的に取り組んでいることは評価できる。
				A	治験の取組に向けたインセンティブのあり方について検討が望まれる。
3 患者の視点に立った病院運営 (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供		38	A	A	相談内容について、より具体的な現状把握が望まれる。
		39	A	<u>B</u>	セカンドオピニオン件数実績は平成20年度比87.2%、平成21年度比91.7%であり、合計件数も平成20年度885件、平成21年度842件に対し、772件と減少していることからB評価としたい。
		40	A	A	満足度調査については病院の機能に応じて様々な項目が考えられるが、基本的事項に関する項目を共通化することにより各病院の比較検討が可能となるよう方法や手順を検討していただきたい。
(3) 患者利便性の向上		42	A	A	待ち時間の短縮について具体的な数値目標の検討が望まれる。
		43	A	A	支払待ち時間の実態調査と数値目標の設定が望まれる。
4 医療人材の確保と育成 (1) 医師の確保と育成		45	A	<u>S</u>	後期臨床研修医を常勤の医師として待遇の充実を図り、医師の確保につなげたことは評価できる。
(2) 看護師の確保と育成		46	A	※補足 説明後	専門看護師及び認定看護師の有資格者（72人）について、専門医療やチーム医療を積極的に取り入れ、緩和ケアやリハビリなどの専門看護師もいるのであれば、専門看護手当の対象とすることで看護師のキャリアアップにつなげていただきたい。
				A	A
(4) 勤務環境の改善		48	A	<u>S</u>	保育時間の延長や24時間保育の実施については評価できる。
				※補足 説明後	ワークライフバランスを取りやすい勤務形態の導入に向けては、短時間正規職員や夜間専従の正規職員などの導入も検討してほしい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

評価の大項目		小項目 番号	自己 評価	委員会 評価意見	コメント（案）
2 効率的・効果的な業務運営と 経営改善 (1) 効率的・効果的な業務運営	ウ職員の経営参画 意識の向上	53	A	A	業務改善のみでなく、経営参画を促すような方法を別の視点で考えていただきたい。
				A	職員の経営参画意識の醸成に向け、今後表彰による効果や表彰以外の視点などについても検討していただきたい。
	オ効率的な事務執行の推進	55	A	※補足 説明後	一般的にこれだけの割引率の達成は評価できる。
(2) 経営改善の取組	ア収益の確保	56	B	B	病床利用率、平均在院日数は相反するものであり、望ましい医療のあり方という視点で目標の検討が望まれる。
				A	未収金の回収率について具体的な数値目標の検討が望まれる。
		58	A	A	多様な支払方法による未収金防止の取組については評価できる。
	※補足 説明後			※未収金の残高および平均滞留期間、貸倒引当金残高の経年推移について説明を伺いたい。	
イ費用の削減	60	A	A	保育業務の委託化の実施は評価できるが、今後どのような目標をたてるか検討していただきたい。	